

女子短大生の色彩嗜好と被服の関係

辻 啓 子

An Investigation into Women's Junior College Students'
Color Preferences in the Clothes

Keiko Tsuji

1. 緒 言

現在、メディアや周囲の環境を通して、色が私たちの生活に及ぼす影響は大きい。筆者ら¹⁾は、1991～1992年にわたる春・夏・秋・冬の4期に、女子短大生の通学服の実態を調査したところ、下衣にはパンツの着用が4期とも50%以上を占め、それらに組み合わせてブラウス、シャツ、Tシャツ、セーターなど、カジュアルな被服が着られていることがわかった。そこで、女子短大生がそれらの服装をどんな色で装っているのか、また、それに好きな色がどのように関わっているかに関心をもった。好きな色とよく着る色との関係については、年齢や性別、季節、流行などの社会的条件、服種、似合う、似合わないといったことなどによって、好きな色が必ずしも着る色とは言えないが、斎藤ら²⁾の報告にもあるように、両者の間には比較的高い相関があるといわれている。

本報では、女子短大生が最初に好きな色を認知したときから短大生になるまでに、どんな色を好んできたか、現在の好きな色と着用色の関係、また、衣生活における色に対する意識などについて調査を行い、いくつかの知見を得たので報告する。

2. 調査方法

(1) 調査対象と調査時期

調査対象は、東海学園女子短期大学、生活学科、生活環境コースの学生194名である。

調査時期は、1993年、1994年の6月下旬の晴天の日に実施した。

(2) 調査内容と方法

調査方法は、アンケート用紙を作成し、集合調査法によった。調査内容を次に示す。

- 1) 最初に好きな色を認知した時期と色（1色選択）および好きになった理由（記述）
- 2) 現在までに好きな色が変わった時期と色（それぞれの時期1色選択）
- 3) 現在の好きな色（2色選択）と好きになった理由（記述）
- 4) 色が生活の中でもつ意味（記述）
- 5) 色に関する情報の入手方法
 - ①新聞、②雑誌、③テレビ、④映画、⑤美術関係の本、⑥町のショーウインドー、⑦広告、⑧展覧会、⑨町を歩いている人の9項目を提示し、選択させる。（複数回答）
- 6) 被服購入時の色の関わり
 - ①デザイン、②色、③柄、④素材、⑤動きやすさ、⑥サイズ、⑦手入れのしやすさ、⑧ブランド、⑨組み合わせやすさの9項目を提示し、被服購入時に、どの項目を重視するかを、服種別に2つ選択させる。
- 7) 服種別によく着る色（2色選択）
- 8) 衣生活における色に対する意識

図5に示す15項目を提示し、4段階評価をさせ、平均得点および標準偏差を求める。また、評価結果について因子分析を行う。
- 9) 色の選択
 - 1), 2), 3), 7)の色の選択には、日本色彩研究所監修『色彩—造形の楽しさ—』³⁾の色名表を用い、その中から自分のイメージに最も近い色を選ばせた。色名は表1に示す57色である。表中の色相—明度—彩度番号は、JIS標準色票⁴⁾と照合した近似の番号である。トーンは、P, b, v, dp, dk, d, gの7種、無彩色はPCCSによるN9.5, 7.5, 5.5, 2.4, 1.0の5種である。

3. 結果と考察

(1) 好きな色

1) 最初に好きな色を認知した時期と短大生になるまでの変化

最初に、好きな色を認知した時期とそれが短大生になるまでにどのように変化してきたかをみた。表2に、最初に好きな色を認知した時期と色名およびトーンの関係を示した。時期は、「幼稚園・保育園に入ってから」が43.8%と最も多く、次いで「小学校低学年」が20.1%で、小学校中学年までには90%の者が好きな色を認知している。色名は、ピンク（7.5 RP 6/10）が26.8%と最も多く、次いで赤（5 RP 8/4）が11.3%で、これらの色は小学校低学年までの出現が高く、小学校高学年以降は、青（PB）系や無彩色の黒が出現している。これら好きな

表1 調査に用いた色

番号	色名	トーン	色相・明度・彩度(JIS)	番号	色名	トーン	色相・明度・彩度(JIS)
1	ばら色	b	7.5 R 6 / 12	29	青緑	v	2.5 BG 5.5 / 8
2	赤	v	5 R 5 / 14	30	鉄色	dk	2.5 BG 3 / 3
3	朱色	v	10 R 5.5 / 14	31	青竹色	d	2.5 BG 5 / 6.5
4	えんじ色	dp	5 R 4 / 10	32	うす水色	p	2.5 B 9 / 2
5	あずき色	d	5 R 6 / 6	33	水色	b	5 B 6.5 / 7
6	灰ピンク	g	7.5 R 7 / 3	34	シアンブルー	v	5 B 5 / 8
7	肌色	p	5 YR 8 / 5	35	あい色	dp	5 B 3 / 6
8	れんが色	dk	2.5 YR 5 / 10	36	空色	b	10 B 6 / 10
9	茶色	d	2.5 YR 3 / 4	37	青	v	2.5 PB 3 / 10
10	山吹色	b	10 YR 7.5 / 12.5	38	ぐんじょう	dp	2.5 PB 2.5 / 8
11	オレンジ	v	5 YR 7 / 12	39	こん色	dk	5 PB 1.5 / 2
12	黄土色	d	10 YR 6 / 7.5	40	はなだ色	d	2.5 PB 4 / 4
13	こげ茶	dk	5 YR 3.5 / 4	41	灰青	g	5 PB 6 / 3
14	黄茶	d	7.5 YR 6 / 8	42	うす藤色	p	10 PB 8 / 3.5
15	うす茶	g	10 YR 7 / 3	43	藤色	b	10 PB 5.5 / 8
16	クリーム色	p	5 Y 8.5 / 3.5	44	青紫	v	10 PB 3.5 / 10
17	レモン色	b	5 Y 8 / 12	45	紫	v	10 P 4 / 10
18	黄色	v	5 Y 8 / 14	46	なすこん	dk	7.5 P 2.5 / 2.5
19	ぞうげ色	g	5 Y 7 / 2.5	47	ぶどう色	d	7.5 P 4 / 10
20	黄緑	v	5 GY 7 / 8	48	灰紫	g	10 P 5 / 2
21	草色	dp	5 GY 6 / 7.5	49	うすピンク	p	5 RP 8 / 4
22	うぐいす色	dk	2.5 GY 4 / 2.5	50	ピンク	b	7.5 RP 6 / 10
23	こげ色	d	5 GY 7 / 6	51	赤紫	v	10 RP 4.5 / 12
24	うす緑	p	2.5 G 9 / 3	52	こい紅色	dp	10 RP 3 / 8
25	明るい緑	b	5 G 6 / 10	53	白		N 9.5
26	緑	v	2.5 G 5 / 10	54	明るい灰色		N 7.5
27	ふか緑	dp	7.5 G 5 / 6.5	55	灰色		N 5.5
28	灰緑	g	7.5 G 6 / 2	56	暗い灰色		N 2.5
				57	黒		N 1.0

表2 最初に好きな色を認知した時期と色名・トーンの関係

単位：人（％）

色名・トーン		時期	幼稚園・保育園 に入る前	幼稚園・保育園 に入ってから	小学校 (低学年)	小学校 (中学年)	小学校 (高学年)	中学 時代	高校 時代	時期は不明	計	
色	R系 ばら色			1							1 (0.5)	
	赤	2	15	6	2	1	1				27 (13.9)	
	朱色			1	1						2 (1.0)	
	YR系 茶色			1	1	1	2				5 (2.6)	
	オレンジ			1							1 (0.5)	
	Y系 レモン色			2							2 (1.0)	
	黄色			7	6	1					14 (7.2)	
	GY系 黄緑				1						1 (0.5)	
	草色				1						1 (0.5)	
	G系 明るい緑	1	2	1	2	1					7 (3.6)	
	ふか緑								1		1 (0.5)	
	B系 うす水色	1	5	2		2					10 (5.2)	
	水色			3	2	1					6 (3.1)	
	空色	1	6		1		1				9 (4.6)	
	名	PB系 青	2	5	1	2	4	1	1			16 (8.2)
		ぐんばう					1					1 (0.5)
うす藤色			1								1 (0.5)	
藤色			1								1 (0.5)	
P系 紫										1	1 (0.5)	
RP系 けピンク		2	11	5	3	1					22 (11.3)	
ピンク		11	27	9	4		1				52 (26.8)	
N 9.5		1	1	2	1						5 (2.6)	
N 1.0					1	5	1	1			8 (4.2)	
トーン		p	3	17	7	3	3					33 (17.0)
	b	12	37	12	7	1	2				71 (36.6)	
	v	5	30	16	8	6	2	1	1		69 (35.6)	
	dp			1			1				2 (1.0)	
	dk			1	1	1					3 (1.5)	
	d					1	2				3 (1.5)	
	計	21 (10.8)	85 (43.8)	39 (20.1)	21 (10.8)	17 (8.8)	8 (4.2)	2 (1.0)	1 (0.5)		194 (100.0)	

表3 最初に好きな色を認知した時期と好みが変わった回数

単位：人（％）

最初に好きな色を認知した時期	好みが変わった回数				計
	1	2	3	4	
幼稚園・保育園に入る前	2 (9.5)	1 (4.8)	10 (47.6)	8 (38.1)	21 (100.0)
幼稚園・保育園に入ってから	7 (8.2)	18 (21.2)	4 (40.0)	26 (30.6)	85 (100.0)
小学校(低学年)	6 (15.4)	9 (23.1)	15 (38.4)	9 (23.1)	39 (100.0)
小学校(中学年)		7 (33.3)	11 (52.4)	3 (14.3)	21 (100.0)
小学校(高学年)	4 (23.5)	3 (17.6)	8 (47.1)	2 (11.8)	17 (100.0)
中学時代	1 (20.0)	5 (62.5)	2 (25.0)		8 (100.0)
高校時代	2 (100.0)				2 (100.0)
時期は不明	1 (100.0)				1 (100.0)
計	23 (11.9)	43 (22.2)	80 (41.2)	48 (24.7)	194 (100.0)

表4 好きな色の変化する時期と色相の関係

時期(人)	色相																																							
	R					YR				Y	GY	G	BG	B	PB				P	RP	N																			
	1	2	3	4	5	9	11	13	14	15	17	18	19	20	21	22	25	26	27	29	32	33	34	36	37	38	39	42	43	44	45	48	49	50	52	53	54	57		
2 (7)	●																●					●●●●																		
2-3 (4)	▲																		●				●▲▲																	
2-3-4-5 (1)	●																	*					○▲																	
2-3- 5 (1)					○						●												▲																	
2-3- 5-6 (6)	●●				○	▲		△			●	△				△	△	△				●▲																○		
	○										▲▲											△△																△		
																						△																		
2-3- 6 (3)	●										▲▲								△			△▲▲			△															
2-3- 6-7 (1)	●					☆	△																																▲	
2-3- 7-8(1)	☆										●																												◎	
2- 4 (1)																								*															●	
2- 4-5 (1)	●																							*															○	
2- 4-5-6 (2)	☆				☆	○																	△				△												○	
2- 4- 6 (4)	△					●											**	*					△△△															●●●	*	
2- 4- 6-7 (2)	☆☆										☆												△△															●●		
2- 4- 7 (3)	●●				☆						●☆												☆☆																●	
											☆												☆																	
2- 4- 7-7(1)	☆					☆																		●				☆												
2- 4- 7-8(2)	☆										☆			◎					*	*						◎												●●		
2- 5 (2)																									○	○												●●		
2- 5-6 (7)	△										●○			○	○				○			○▲			△	●	△										●●●	△△	○	
																																						●●	△	
2- 5-6-6 (1)	●							○																														△	△	
2- 5-6-7 (5)	○▲					△	☆		△	○▲			○▲			●		●	○☆			☆	☆														●●	○	○☆	
																																						●	△	
2- 5- 7 (6)	○				☆		☆☆			●				*	●	○			○	○	○	○	○	○	○	○											●●●			
																																						●●●		
																																						☆		
2- 5- 7-7(1)																								☆														●	○	☆
2- 6 (9)	●●									●														△	●●▲▲	△	△										●●	●▲	△	
																								△△														●		
2- 6-6 (2)								△															●●			△											△	△		
2- 6-7 (5)	●	☆	△				☆						△	△		△	☆		●				☆	☆			☆		●	●●								△	△	
2- 6-7-7(2)	△△										●●												☆☆															△	△	
2- 6-7-8(1)		△																					☆	☆													●	☆		
2- 6- 8(1)	●										△																												◎	
2- 7 (2)							☆			●														●															☆	
2- 7-7(1)	☆																											☆	●											

2-● 幼稚園・保育園に入ってから 4-★ 小学校中学年 6-△ 中学時代 8-◎ 大学時代
 3-▲ 小学校低学年 5-○ 小学校高学年 7-☆ 高校時代
 (注) 最初に色を認知した時期が、「幼稚園・保育園に入ってから」と回答した85人の結果

色とトーンの関係は、bトーンが36.6%、vトーンが35.6%、pトーンが17.0%で、明るく、さえた色が好まれている。

次に、これら好きな色が短大生になるまでに何回くらい、どのような色に変わってきたかをみた。表3に、最初に好きな色を認知した時期と好みの変わった回数との関係を示した。最初に好きな色を認知した時期が、「幼稚園・保育園に入ってから」から「小学校高学年」までの者は3回が最も多い。その変化の時期と色相の関係をみたのが表4である。ただし、最初に好きな色を認知した時期として最も出現の多かった「幼稚園・保育園に入ってから」の85人の結果である。85人で30の組み合わせが出現した。最も多かった例は、2-6、すなわち「最初と中学時代」が9人(10.6%)、次に「最初から現在まで変わらない」、「最初-小学校高学年-中学時代」が7人(8.2%)、「最初-小学校低学年-小学校高学年-中学時代」、「最初-小学校高学年-高校時代」が6人(7.1%)と、最初に認知した時期から次への変化は小学校高学年くらいからであることがわかる。

色相の変化は、小学校低学年までにはRP系のピンク、うすピンク、R系の赤が多いが、中学時代では色相数も多くなり、B系、PB系、無彩色(白、黒)へと変わり、高校時代にはYR系、Y系の出現もみられ、年齢によって色の好みに変化があることがわかる。

2) 現在の好きな色

現在の好きな色の出現数を表5に示した。57色中45色出現したが、最も嗜好率の高い色は白で、35.6%の出現率である。日本色彩研究所の色彩嗜好調査⁵⁾でも白が1位である。白は、中学時代頃から好きになり、短大生になって嗜好率がより高くなっている。次いで黒23.7%、青25.3%、空色13.9%の順に多く、低年齢の頃に好きだった色とは大きく変わっている。トーンは、無彩色を除いてはvトーンが29.9%と最も多く、最初に好きな色を認知した時期に多かったpトーンの出現は低い。

これら出現の高かった上位5位までの色について、好きになった理由を整理したのが表6である。最も出現の高い白は、「清潔感」と、「他の色との組み合わせやすさ」がほぼ同じくらい出現し、黒は「落ち着く」、「大人らしい」、「どんな色にも合う」といった理由が多い。他の色も含めて、好きな理由は、色がつイメージと、「どんな色にも組み合わせやすい」といった服装をイメージして考えられている2面があることが明らかにされた。

これら色に関する情報を、なにから得ているかをみたのが図1である。「雑誌」が最も多く79.4%、次いで「テレビ」が53.1%で、服飾に関心の高い短大生は、「町のショーウインドウ」からも38.1%と高い割合で情報を得ている。

(2) 好きな色と着用色

次に、好きな色と着用色の関係についてみた。図2に、下着からタイツ・ソックスまでの7

表5 現在好きな色とトーン (1人2色)

<色名>

色名	人数(%)	計	色名	人数(%)	計	
R系 ばら色	1	23 (5.9)	B系 うす水色	7	46 (11.9)	
赤	6 (8.2)		水色	9		
朱色	3		シアンブルー	1		
えんじ色	2		あい色	2		
灰ピンク	1		空色	27 (13.9)		
YR系 はだ色	1	35 (9.6)	PB系 青	49 (25.3)	78 (20.1)	
茶色	2		くんじょう	6		
山吹色	2		こん色	12 (6.2)		
オレンジ	9		はなだ色	1		
こげ茶	1		うす藤色	2		
黄茶	1		藤色	8		
うす茶	19 (9.8)		P系 紫	3		4 (1.0)
Y系 グリーン	3	24 (6.2)	なすこん	1	22 (5.7)	
レモン色	1		RP系 けいピンク	4		
黄色	19 (9.8)		ピンク	9		
ぞうげ色	1		赤紫	3		
GY系 草色	1	5 (1.3)	こい紅色	6	123 (31.7)	
うぐい色	3		無彩色 白	69 (35.6)		
こげ色	1		明るい灰色	2		
G系 うす緑	3	15 (3.9)	暗い灰色	6	46 (23.7)	
明るい緑	1		黒	46 (23.7)		
緑	10 (5.2)		N.A.			10 (2.6)
ふか緑	1		計			388
BG系 青緑	3	3 (0.7)			(100.0)	

<トーン>

トーン	人数(%)
p	20 (5.2)
b	58 (14.9)
v	116 (29.9)
dp	18 (4.6)
dk	17 (4.4)
d	5 (1.3)
g	21 (5.4)
N 9.5	69 (17.8)
N 7.5	2 (0.5)
N 2.5	6 (1.5)
N 1.0	46 (11.9)
N.A.	10 (2.6)
計	388 (100.0)

表6 現在好きな色の好きになった理由 (上位5位まで)

()内は人数

53 白 (69)	57 黒 (46)	37 青 (49)	36 空色 (27)	15 うす茶 (19)	18 黄色 (19)
清潔 (26)	落ち着く (11)	さわやか (15)	きれい (8)	落ち着いている (5)	明るい (5)
清楚	ひきしまっている	空や海の色 (5)	空や海の色 (6)	やさしい (2)	目立つ (4)
さわやか (12)	はっきりしている	きれい (4)	さわやか (4)	やわらかい	元気になれる (2)
すずしい	大人の感じ (6)	すずしい (2)	すがすがしい	上品	はなやか
さっぱりしている	シャープな色	気持ちよい	すっきりしている	運勢がよくなる色	あざやか
健康的	きれい	動揺されるような感じ	すずしい		さわやか
まざり気がない		奥が深い	心がなごむ		かわいい
美しい		はっきりしている			
きれい (2)		上品に見える			
透明感がある					
シンプル					
ほっとする					
今の季節にあう	どんな色にも合う (12)	夏は青 (2)	自分に合う	なんにでも合う (3)	黒と合わせやすい
あわせやすい (11)	かっこよい	かっこよい	小さいときから好き	どんな季節にも合う	自分にあう
着こなしやすい	細くみえる	ボーイッシュ	制服の色	おしゃれっぽい	人に馴染むといわれた
白いブラウスをよく着るようになった	動き合わせて変化が楽しめる	あわせやすい (3)	好きなスポーツ選手の好きな色	はやっているから	いままでとは違った色に馴染
小さいときから好き	着こなしやすい	自分に合う (2)	好きな色とよく馴染む	いつも選んでしまう	
	黒い服を着るようになった	好きな色のイメージ		好きな色	
	なんとなく	ずっと好き		わからない	
未記入 (4)	未記入 (3)	未記入 (7)			

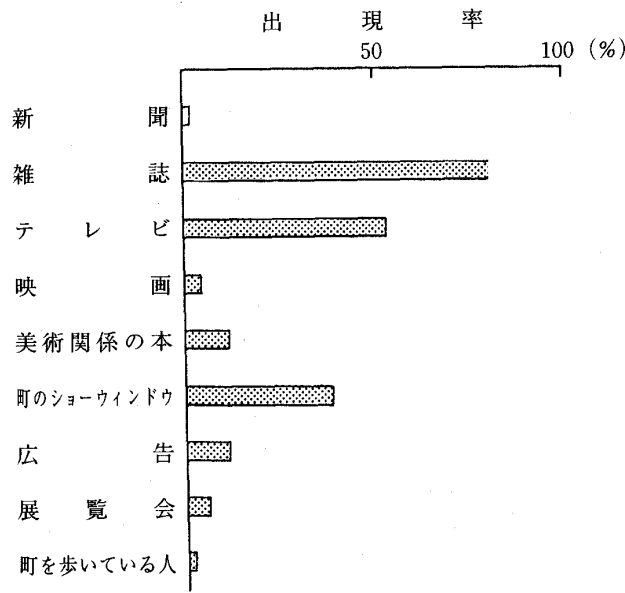


図1 色に関する情報 (複数回答)

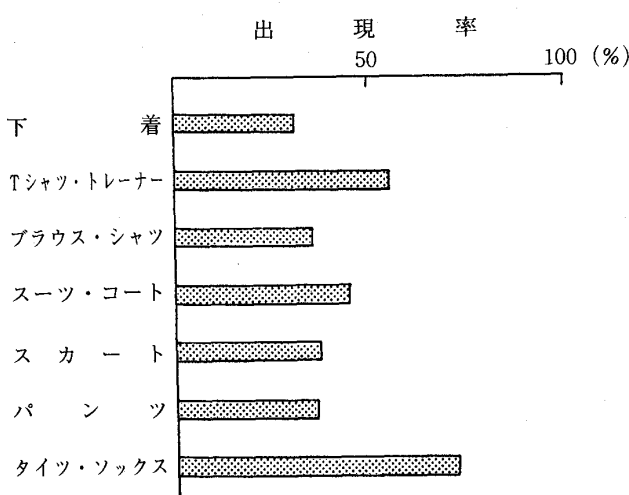


図2 購入時に色を配慮する者の割合

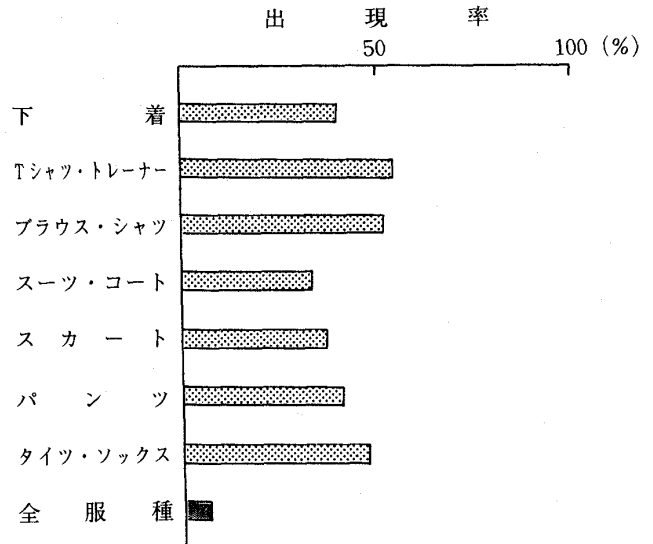


図3 好きな色が着用色に出現している割合

種の服種について、調査方法で示した9項目を提示し、被服購入時に、どの項目を最も配慮するか二つ選択させ、「色」と回答した者の出現率を示した。タイツ・ソックスが72.7%と最も多く、次いでTシャツ・トレーナーが55.2%で、他の服種は50%以下である。このことから、デザインや素材が比較的決まっている服種に色に関わる割合が高い。また、図3に、服種別によく着用する色を二つ選択させ、それらに好きな色が出現している割合を示した。Tシャツ・トレーナー、ブラウス・シャツは約50%の者に好きな色が出現しているが、他の服種は50%以下である。また、194人中全服種に好きな色が出現している者は6.7%で、好きな色と着用色の関係は必ずしも高いとはいえない。

それではどんな色がよく着られているかを、服種別に5位までを図4に示した。各服種の下に示した()内の数値は出現した色数であるが、スーツ・コート、スカート、パンツは30色以上出現している。服種別に出現した5位までの色は、下着は91.8%が白、次いでピンク、うすピンクである。トレーナー・Tシャツ、ブラウス・シャツも白が90%以上で、次いで黒、青である。コート・スーツは色の出現数が多いこともあるが、下着、Tシャツ・トレーナー、ブラウス・シャツのように抜きん出て出現率の高い色はなく、色相は、紺、黒、灰色、うす茶の順に多い。スカート、パンツもスーツ・コートと同様の出現傾向で、5位までの色は順位が変わるだけである。

全体的には、下着を除いて、明るく、さえた色は少なく、白、灰色、黒の無彩色に、落ち着いた青、紺、うす茶が着られていた。

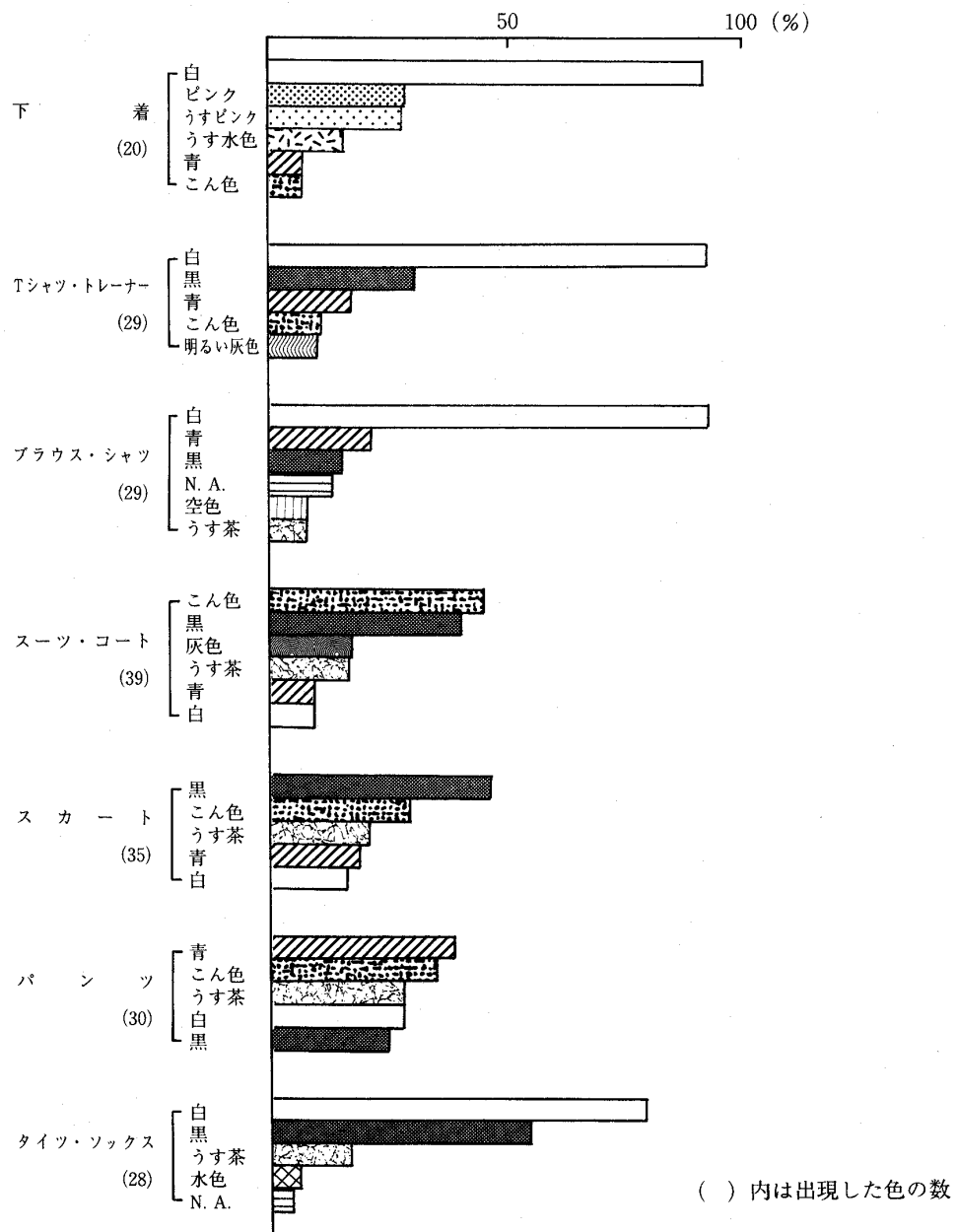


図4 よく着る色 (上位5位まで)

(3) 衣生活における色に対する意識

最後に、衣生活の中で色はどのように考えられているかを、15の項目を提示し、SD法による4段階評価をさせ、平均得点と標準偏差を図5に示した。項目の内容を、Iは、生活の中での色、IIは、生活場面と色、IIIは、着装時の色のコーディネイト、IVは、季節、性別、流行など社会的条件と色、Vは、好きな色に対する考え方に大別した。

評価結果は、Iでは、色は生活を楽しませ、個性を表現してくれるものとして高く評価されている。IIでは、通学時やパーティーに着用する服装の色への関心は高いが、就職活動での派手な色の服装には否定的である。IIIの色のコーディネイトについては、高い関心がある。IVの社会的条件と色の関係については、いずれもやや低い評価である。Vでは、衣服を購入するときには好きな色を考慮するが、好きな色を似合う色だと「まあ考えている」という結果である。

以上の結果をまとめると、色は生活を楽しめるものにし、個性を表現するものとしてとらえられ、そのためには意識的に色が活用されているが、季節、性別、流行といった社会的条件とのかわりについてはあまり意識されていないことが明らかにされた。

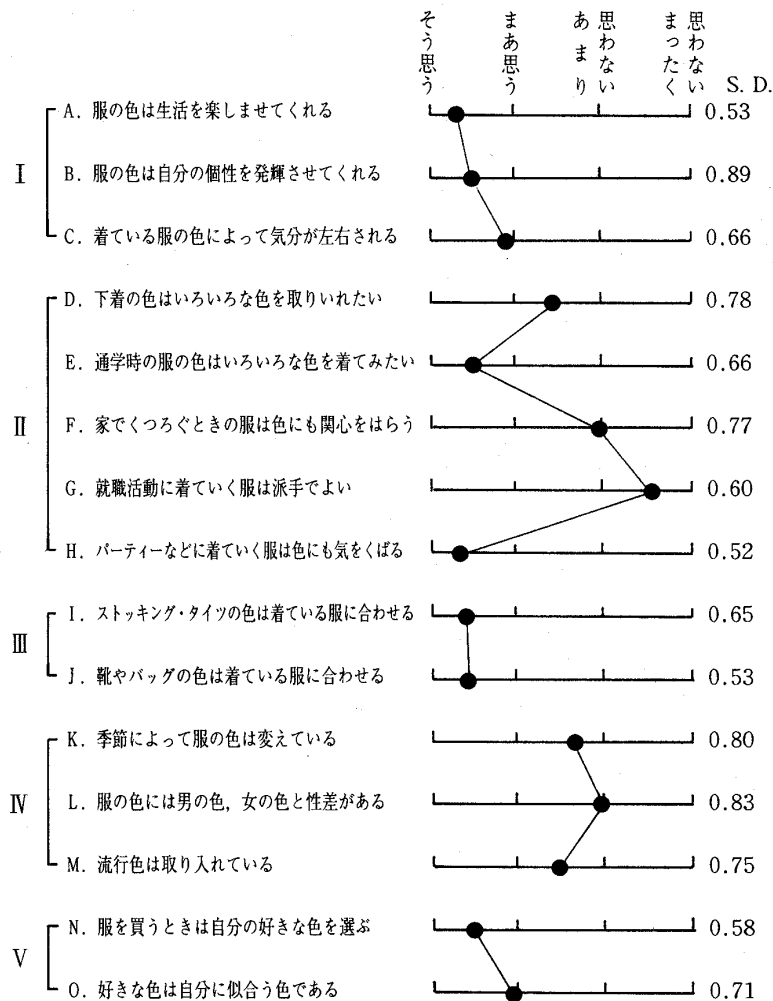


図5 衣生活における色に対する評価の平均得点と標準偏差

さらに、この評価結果について因子分析を行い、バリマックス回転後の因子負荷量を表7に示した。3因子が抽出されたが、第Ⅰ因子は、生活を楽しませてくれる「楽しみ」の因子、第Ⅱ因子は、季節、性別といった社会的条件にはやや否定的な「規範」の因子、第Ⅲ因子は、好きな色にこだわりをもつ「好きな色」の因子と命名した。

表7 因子分析結果

項目	I	II	III
H. パーティの服	0.6142	0.1527	0.0484
B. 個性の発揮	0.6046	0.2664	0.0170
E. 通学時の服	0.5991	-0.0040	-0.1427
C. 気分を変える	0.5960	0.1455	-0.0916
A. 生活の楽しみ	0.5223	0.0422	0.0348
J. 靴とバッグ	0.4808	-0.0826	0.2709
D. 下着の色	0.4716	-0.4433	-0.2541
M. 流行色	0.4525	0.4423	0.1805
L. 服の色と性差	0.0105	0.6863	-0.1211
K. 服の色と季節	0.3110	0.6808	0.1029
N. 好きな色	0.0387	0.0119	0.6706
O. 似合う色	0.2945	0.2135	0.4671
F. 家で着る服	0.3350	0.1799	-0.4528
I. 靴下類の色	0.3397	-0.1387	0.4212
G. 就職活動	0.1709	-0.1110	-0.3937
寄与率 (%)	48.6	26.8	24.6
累積寄与率 (%)	48.6	75.4	100.0
命名	楽しみ	規範	好きな色

4. 要 約

短大生の色の好みの変化および現在の好きな色、好きな色と着用色の関係、衣生活における色に対する意識について調査・検討した結果は、次のように要約される。

(1) 色の好みについては、低年齢では、色相はピンク系、赤、トーンはV、Pトーンの出現率が高いが、年齢が高くなるに従い無彩色の白、黒、青系の嗜好が高くなる。

(2) 現在の好きな色は、色相では、白35.6%、青25.3%、黒23.7%、うす茶9.8%、黄色9.8%の順に多く、無彩色を除く色のトーンはVトーンが多い。

(3) 被服購入時には、デザイン、素材などが比較的決まっている服種に色を配慮する割合が高い。

(4) 好きな色が着用色として高い出現を示す服種は、Tシャツ・トレーナー、ブラウス・シャツ、タイツ・ソックスで、約50%前後の者に出現し、デザイン要素の少ない服種に好きな色の

出現が高い。

(5) 生活の中で、色は、生活を楽しませ、個性を表現するものとしてとらえられ、そのためには意識的に色は活用されており、好きな色は被服購入時に大きく関わっている。また、好きな色は自分に「まあ似合う色」として受けとめられている。

(6) 以上みてきたように、短大生にとって被服への色の関わりは大きく、好きな色も被服との関わりの中でとらえられている。

最後に、本調査にご協力いただいた本学学生に深謝します。

文 献

- 1) 林 豊子, 山田令子, 竹下弓子, 辻 啓子: 織消誌, 36, 31, (1995)
- 2) 斎藤真理子, 中川早苗, 片山陽次郎: 色彩誌, 19, 3, (1986)
- 3) (財)日本色彩研究所監修: 色彩—造形の楽しさ—, 日本色研事業株式会社 (1991)
- 4) (財)日本色彩研究所: JIS Z 8721 標準色票, 日本規格協会
- 5) (財)日本色彩研究所, 色彩情報研究会: 消費者の色彩嗜好調査, 日本色彩研究所 (1991)
- 6) 加藤雪枝, 寺田純子, 中川早苗, 橋本令子, 高木節子, 大野庸子: 生活の色彩学, 朝倉書店 (1994)
- 7) (財)日本色彩研究所編: 色彩ワンポイント 5, 色彩と人間, 日本規格協会 (1993)